

## 各調査結果等からみえる課題とまとめ②

### 1 市民意識調査からみえる課題

#### (1) 地域のつながりづくり

身近な「地域」の範囲を自治会と捉える傾向が強くなっている一方、近所づきあいは希薄になっている傾向がみられ、特に若い世代では「あいさつをする程度」のつきあいが多く、「ほとんどつきあいが無い」という状況も進行しています。また、地域のつながりの重要性については、地域の課題として多くの人が捉えています。

隣近所とのあいさつからはじめ、地域の集いの場や行事に参加する機会を設けるなど、地域資源を活かした地域のつながり・支え合いの環境づくりが大切です。

#### (2) ボランティア活動への参加促進

ボランティア活動への参加経験は以前と比べ多くなってきています。機会があれば参加したいという意向を踏まえ、気軽に参加できるボランティアの場をつくるなどの工夫が大切です。

#### (3) 防災活動への取組強化

防災意識が高まる中、若い世代を含め、自助、共助での防災対策や支援への意識の高まりがみられることから、避難行動要支援者の認知度を高めるとともに、自主防災組織と連携して地域全体で防災体制の強化や防災意識のさらなる普及啓発を図ることが大切です。

#### (4) 福祉教育の推進・福祉活動の活性化

地域の課題として、ひとり暮らしの高齢者や障害のある人などに対して支援の必要性を感じているものの、自身が福祉活動に参加するまでには至っていない状況が見受けられます。自治会長、民生委員・児童委員からは、地域での助け合いに関心を持っていないことが課題である、また、認知症の人、引きこもりや閉じこもりの人への支援が特に必要、との意見が多くみられます。

これらのことから、福祉教育の推進や福祉意識向上のための啓発、ボランティア活動などの福祉活動を経験するといった取組が必要です。

## 2 団体ヒアリング調査からみえる課題

### (1) 団体活動の活性化・担い手の育成

活動上の課題としては、組織と活動の持続可能性に関するものが多く、特に活動の担い手不足については、新しいメンバーが入らない、後継者がいない、といった回答が多くの団体で見られました。

今後も持続的に各団体の活動を進めていくためには、地域住民の理解と協力、市や社会福祉協議会等による支援が大切です。また、気軽に団体活動に参加できる機会を設けたり、団体のPRを行ったりして活動に関心を持ってもらい、担い手の確保につながるよう取り組んでいくことが大切です。

### (2) 団体同士のネットワークづくり

各団体からは、活動のさらなる充実や、福祉教育、活動の専門性の向上を図るために、今以上に団体同士の連携を図りたいと考えている意見が多くみられました。しかし、連携に当たっては、連携の方法が分からない、団体同士の相互理解が不足している、などの意見があがっていました。

今後、団体同士が交流できる機会を増やし、団体活動の充実を図ることが必要です。

### (3) 情報伝達手段の工夫

支援を必要とする人の情報が得にくい、市民に情報発信する場や機会、方法が分からないなど、団体活動を行う中で、活動に必要な情報を受け取ったり、発信したりすることに悩みを抱えていることが分かりました。また、地域内の課題として、障害の理解や障害のある人に対する災害時・緊急時の接し方の啓発、外国人住民がごみ出しで苦労している、ヘルプマークの啓発が必要ではないかなど、必要な情報が住民に伝わっていないのではないか、という意見がありました。

情報が必要な人に必要な情報が行き届くよう、各団体が地域課題、専門知識、福祉の動向等活動に必要な情報を十分に受け取り、情報を発信するための工夫を行うことが重要です。

### (4) 新たに対応すべき課題

各団体からあがってきた地域の課題には、30代～50代で引きこもっている人を助ける制度がない、住宅の確保が難しい障害のある人がいる、子どもの貧困、一人暮らしの高齢者で地域に出てこない人への支援、親がうつである場合の子どものケア、などといった複数の課題を同時に抱えていたり、福祉以外の分野にも関係する課題がありました。

こうした課題に対し、地域全体で支援へと結びつける体制を充実させるため、各団体と市や社会福祉協議会、関係機関が今以上につながりをもつことが大切です。

### 3 住民参加型会議「地域を語り合う座談会」からみえる課題

#### (1) 地域福祉の担い手の育成

地域福祉の担い手に関する課題として、役員の人数不足と多忙化、高齢化、若い世代の参加者が見られない、といった意見が多く出ていました。

地域での活動に取り組むには、まずは体験、経験してみることが大切であり、その中で新しい出会いや発見が期待されます。中部地区では万燈祭、大名行列など、お祭りが盛んであることから、地元の行事をきっかけとして次世代につなげていきたいとのアイデアが出ていました。誰でも気軽に参加できる地域のお祭りや地元の行事、子どもから企画に参加できるイベントなどで地域の活動に興味を持ってもらい、次代の地域福祉の担い手となるよう支援していく必要があります。

#### (2) 顔の見える関係づくりの推進

高齢者と若い世代、あるいは転入者と既に住んでいる人の交流が少ない、引きこもりや一人暮らしの人など地域に出てこない人がいる、顔がみえないことから情報共有や交流が十分ではない、などが課題としてあがっていました。一方、南部地区では福祉委員会の活動が活発化してきており、団体同士の横のつながりが生まれ、各団体が協力し合うことで福祉活動が活性化してきているという意見もありました。

今後は、さらにつながりを広げるために、お寺、神社、空き家などを含めた地域にある資源を活かした集まりの場づくりや、多世代の交流ができるイベントの開催などが大切です。また、既にあるサロンなどの集まりの場では、集まりの場同士の交流や、子どもと高齢者の交流の機会をつくるなどの取組の充実が必要です。

#### (3) 安心できる地域の形成

地域内の災害時要支援者を把握できているか不安である、また、災害時に要支援者へどのように支援してあげればいいのか分からない、などという心配があがっていました。特に、北部地区では合同避難訓練の実施時期と座談会の開催日が近かったためか、要支援者とのつながりづくり、要支援者の支援方法など、多くの方から要支援者についての意見があげられました。

普段からの近所づきあいの中で支援が必要な人を地域で把握し、イベント等を通じて住民同士の交流を促したり、防災に関する意識啓発を行ったりするなど、地域のつながりをつくっておくことが大切であるほか、地域で独居の高齢者に対する安否確認を行っていくなどの取組が必要です。

## 4 まとめ

### 地域のつながりづくり

市内では、多くの団体が地域住民と共にイベントやサロン活動、地域課題の解決に向けた取組を進めるなどの地域活動を行っています。

しかしながら、若い世代ほど近所づきあいが希薄化している状況にあり、市民も課題として認識しています。また、各団体・組織の多くは担い手の不足や高齢化、役員など一部スタッフの多忙化に悩んでおり、活動が十分に展開できない課題も抱えています。

このことから、高齢者と若年者、居住年数が長い人と転入者など、住民同士が交流する機会を持つことが必要です。また、福祉教育等を通じて福祉への理解を深める取組、ボランティアの育成、地域活動の場づくり、地域で活動する団体・組織・事業者同士の連携についても一層促していくことが大切となります。

### 困りごとを抱えた人が適切な支援を受けられるしくみづくり

困りごとを抱えた人に対しては、市や社会福祉協議会をはじめ、市内の関係機関や各団体が相談を受け付け、必要に応じて他団体等と連携しながら、適切な支援に向けて取り組んでいます。

支援は、高齢者、障がいのある人、子育て世帯、生活困窮者など分野が限定された人だけでなく、30代～50代の引きこもりなど個別の制度の支援対象に入らない「制度の狭間」にいる人や、複数の困りごとを抱えた人などにも目を向ける必要があります。

「支え手」「受け手」という関係ではなく、地域で起こっている問題に対して一人ひとりが身近な問題として捉え、地域住民の困りごと気づき、人・場所・ものといった地域資源を活かしながら、適切な支援へつなげることが必要となります。

### 情報が行き届き、安心して暮らせる地域づくり

福祉に関する情報については、市からは広報紙やHP、福祉健康フェスティバルなどのイベントを通じて、また、福祉活動団体においてはHPやチラシ配布、団体活動などを通じて周知を図っていますが、福祉について理解が得られていない、地域福祉の担い手である団体・組織の活動を知らない、といった意見がみられます。

困ったときに相談先が分からない、必要な情報を受け取れない、必要な支援を受けられない、といったことがないよう情報発信の工夫が求められています。

また、近年、地震や台風など大規模災害が相次ぐなか、自主防災組織等による防災活動が活発となっており、住民の防災意識も高まっています。

普段からの住民同士の交流や見守り活動による安否確認、防災訓練などの機会を通じて、顔の見える関係を築き、安心して暮らせる地域づくりが重要となります。